

# 2015年度(平成28年3月期) 第1四半期決算説明資料

2015年8月4日

株式会社 IHI



## 1. 2015年度第1四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益及び特別損益.....	9
連結貸借対照表.....	10
補足資料.....	11

## 2. 2015年度 連結業績見通し

第2四半期(累計)業績見通し.....	14
通期業績見通し.....	15
報告セグメント別内訳.....	16

## 3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	19
社会基盤・海洋.....	21
産業システム・汎用機械.....	23
航空・宇宙・防衛.....	25

<b>&lt;参考資料&gt;</b> .....	27
---------------------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

# 1. 2015年度第1四半期 連結決算

# 1. 2015年度第1四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2015年度1Q 売上平均レート(米ドル) 121.37円

(億円)

	'14年度1Q	'15年度1Q	増 減
受 注 高	2,775	3,010	234
売 上 高	2,812	3,407	594
営 業 利 益	151	0	▲ 151
経 常 利 益	121	▲ 4	▲ 125
税金等調整前 四半期純利益	121	▲ 4	▲ 125
親会社株主に帰属する 四半期純利益	65	0	▲ 65

# 1. 2015年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受 注 高			受 注 残 高		
	'14年度1Q	'15年度1Q	増 減	'14年度末	'15年度1Q	増 減
資源・エネルギー・環境	1,017	1,461	443	7,604	8,137	533
社会基盤・海洋	460	233	▲ 226	2,319	2,218	▲ 101
産業システム・汎用機械	959	1,014	54	1,210	1,287	76
航空・宇宙・防衛	322	279	▲ 43	5,107	4,314	▲ 792
報告セグメント計	2,760	2,988	228	16,241	15,958	▲ 283
そ の 他	143	158	15	312	343	31
調 整 額	▲ 127	▲ 137	▲ 9	-	-	-
合 計	2,775	3,010	234	16,554	16,301	▲ 252
海外受注高・受注残高	1,219	1,009	▲ 209	8,087	7,152	▲ 935
海外受注高・受注残高比率	44%	34%	▲ 10%	49%	44%	▲ 5%

# 1. 2015年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'14年度1Q	'15年度1Q	増減	'14年度1Q	'15年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	724	1,011	286	▲ 12	▲ 9	3
社会基盤・海洋	379	338	▲ 40	13	▲ 130	▲ 144
産業システム・汎用機械	861	931	69	22	6	▲ 15
航空・宇宙・防衛	842	1,111	269	148	173	25
報告セグメント計	2,807	3,392	584	172	41	▲ 130
その他	104	105	1	▲ 3	▲ 5	▲ 1
調整額	▲ 99	▲ 90	8	▲ 16	▲ 35	▲ 18
合計	2,812	3,407	594	151	0	▲ 151

# 1. 2015年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前年同期比増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	合計
資源・エネルギー・環境	19	▲ 10	12	▲ 18	3
社会基盤・海洋	▲ 8	▲ 141	5	0	▲ 144
産業システム・汎用機械	10	▲ 13	3	▲ 15	▲ 15
航空・宇宙・防衛	23	▲ 5	35	▲ 28	25
報告セグメント計	44	▲ 169	55	▲ 61	▲ 130
その他		3		▲ 4	▲ 1
調整額		▲ 30		12	▲ 18
合計	44	▲ 196	55	▲ 53	▲ 151

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

## F-LNG・海洋構造物事業における採算悪化と対策について

- 2014年度に発生した採算悪化要因
  - シンガポール向けドリルシップの初号機対応, 仕様変更に伴う出図遅れ多発による工事損益の悪化
  - 出図遅れによる愛知工場操業差損
  - LNG船用SPBタンク建造での, 為替円安に伴う材料価格の上昇
- 2015年度第1四半期に発生した採算悪化要因
  - シンガポール向けドリルシップの図面改正対応費用, 工程遅延に対するキャッチアップ費用の増加
  - ドリルシップの工程遅延に伴い, ノルウェー向けFPSO船体建造工事の一部で海外への外注化が必要となり, 外注費及び輸送費の増加
  - LNG船用SPBタンク建造での, 初号機対応による材料歩留の悪化
- 対策
  - 手持工事の完遂
  - プロジェクト管理体制の強化
  - コーポレート主導の施策(部門を超えた技術者・専門家の配置や, モニタリング強化など)  
⇒早期に生産混乱を収束させ, 損失の極小化に取り組んでいきます。
- 事業性の検討  
長期的な需要と, 足許の資源価格の低迷や技術的な優位性などを総合的に勘案して, 当該事業の収益性改善と将来性の検討を開始しています。



# 1. 2015年度第1四半期 連結決算 営業外損益及び特別損益

(億円)

	'14年度1Q	'15年度1Q	増 減
金融収支	0	0	0
持分法による投資損益	▲ 4	11	15
為替差損益	▲ 15	9	24
その他	▲ 9	▲ 24	▲ 15
営業外損益	▲ 30	▲ 4	25
特別損益	—	—	—

# 1. 2015年度第1四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'14年度末	'15年度1Q末	増減
<b>資産合計</b>	<b>16,908</b>	<b>17,022</b>	<b>114</b>
(うち 売上債権)	(4,382)	(4,247)	(▲ 135)
(うち 棚卸資産)	(3,993)	(4,343)	(350)
<b>負債合計</b>	<b>13,312</b>	<b>13,476</b>	<b>163</b>
(うち 仕入債務)	(3,001)	(2,866)	(▲ 135)
(うち 前受金)	(1,251)	(1,486)	(234)
(うち 有利子負債残高)	(4,106)	(4,305)	(198)
<b>純資産合計</b>	<b>3,595</b>	<b>3,546</b>	<b>▲ 49</b>
株主資本	3,135	3,088	▲ 46
その他の包括利益累計額	322	318	▲ 4
<b>負債・純資産合計</b>	<b>16,908</b>	<b>17,022</b>	<b>114</b>
<b>D/Eレシオ (※)</b>	<b>1.14倍</b>	<b>1.21倍</b>	<b>0.07倍</b>

有利子負債残高には、リース債務残高( '14年度末:172億円, '15年度1Q末:173億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

# 1. 2015年度第1四半期 連結決算 補足資料

## (1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'14年度1Q	'15年度1Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	140	6	▲ 134
投資キャッシュ・フロー	▲ 188	▲ 160	28
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 47	▲ 154	▲ 106
財務キャッシュ・フロー	140	162	21

## (2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	'14年度1Q	'15年度1Q
研究開発費	62	84
設備投資額	83	79
減価償却費	95	106

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産に係る金額を示しています。

# 1. 2015年度第1四半期 連結決算 補足資料

## (3) 海外売上高

(億円)

	'14年度1Q	'15年度1Q
ア ジ ア	360	495
中 国	159	247
北 米	602	845
中 南 米	57	69
欧 州	418	373
そ の 他	37	59
合 計	1,635	2,089
海外売上高比率	58%	61%

## 2. 2015年度 連結業績見通し

## 2. 2015年度 連結業績見通し 第2四半期(累計)業績見通し

前提為替レート      米ドル 115円  
(第2四半期)          ユーロ 130円

(億円)

	前回見通し (‘15年度第2 四半期累計) A	今回見通し (‘15年度第2 四半期累計) B	前期実績 (‘14年度第2 四半期累計)	増 減 B-A
売 上 高	7,000	7,000	6,161	0
営 業 利 益	320	200	289	▲ 120
経 常 利 益	230	140	323	▲ 90
親会社株主に帰属する 四半期純利益	140	60	209	▲ 80

売上高は、前回発表予想から変更はありませんが、損益面では、一部販管費の発生のずれを織り込む一方で、F-LNG・海洋構造物での採算悪化やトルコ イズミット湾横断橋建設工事における追加費用の増加により、前回発表予想に対して、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに減益となる見込みです。

## 2. 2015年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル 115円  
(第2四半期以降) ユーロ 130円

(億円)

	前回見通し ('15年度通期) A	今回見通し ('15年度通期) B	前期実績 ('14年度通期)	増減 B-A
受注高	16,000	16,000	16,643	0
売上高	15,800	15,800	14,558	0
営業利益	900	750	632	▲ 150
経常利益	750	630	565	▲ 120
親会社株主に帰属する 当期純利益	490	390	90	▲ 100

(参考) 為替感応度 (為替相場1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル 9億円 ユーロ 0億円

受注高、売上高は、前回発表予想から変更していませんが、損益面では、F-LNG・海洋構造物及びトルコ イズミット湾横断橋建設工事の影響によって、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに減益となる見込みです。

## 2. 2015年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し ('15年度通期)	今回見通し ('15年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	5,300	5,300	0
社会基盤・海洋	1,400	1,400	0
産業システム・汎用機械	4,300	4,300	0
航空・宇宙・防衛	4,800	4,800	0
報告セグメント計	15,800	15,800	0
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 500	▲ 500	0
合 計	16,000	16,000	0



## 2. 2015年度 連結業績見通し

### 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’15年度通期)		今回見通し (’15年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	4,800	310	4,800	310	0	0
社会基盤・海洋	1,800	70	1,800	▲ 80	0	▲ 150
産業システム・汎用機械	4,300	140	4,300	140	0	0
航空・宇宙・防衛	4,700	430	4,700	430	0	0
<b>報告セグメント計</b>	<b>15,600</b>	<b>950</b>	<b>15,600</b>	<b>800</b>	<b>0</b>	<b>▲ 150</b>
そ の 他	700	20	700	20	0	0
調 整 額	▲ 500	▲ 70	▲ 500	▲ 70	0	0
<b>合 計</b>	<b>15,800</b>	<b>900</b>	<b>15,800</b>	<b>750</b>	<b>0</b>	<b>▲ 150</b>

### 3. 報告セグメント別の概況

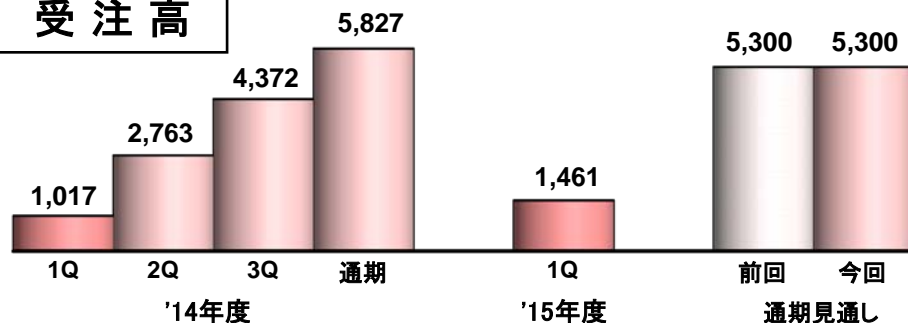
### 3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2015年5月8日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, ガスプロセス, 原子力, 環境対応システム, 医薬

#### 受注高

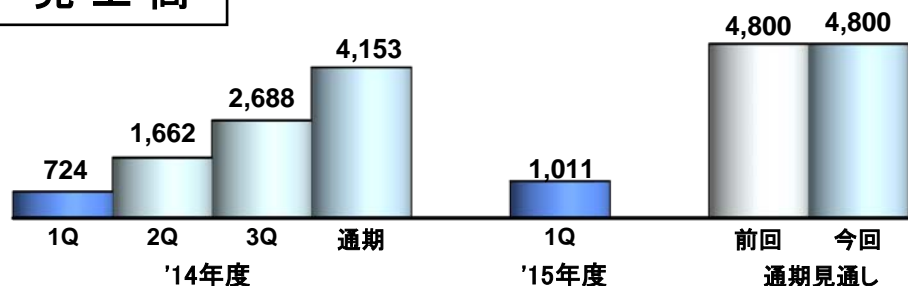


#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

環境対応システムの減少はあったものの、ボイラ大型案件の受注及び陸船用原動機が増加したため、前年同期に比べ増加しました。

#### 売上高



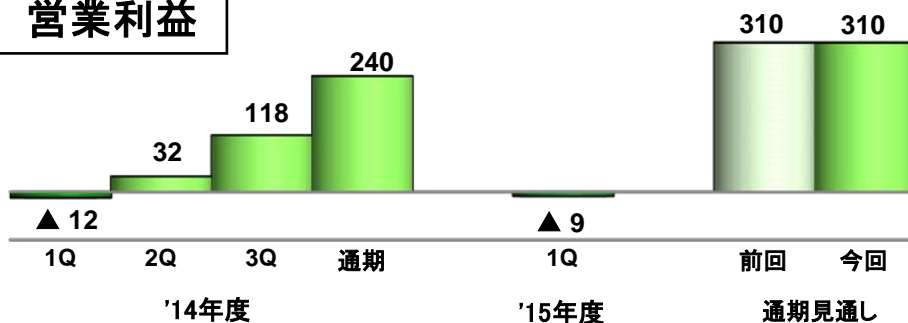
##### 【売上高】

ガスプロセス及び陸船用原動機の増収により、前年同期に比べ増収となりました。

##### 【営業利益】

増収効果に加えて、為替円安の影響もあり、前年同期に比べ赤字幅が縮小しました。

#### 営業利益



#### <通期見直し 対前回 増減内訳>

変更はありません。

### 3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高					
	'14年度 通期	'15年度 通期 (見通し)	'14年度			通期	'15年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
ボ イ ラ	1,762	1,200	203	420	643	885	182	950
原 動 機 プ ラ ン ト	396	400	39	87	169	289	43	300
陸 船 用 原 動 機	789	850	153	342	507	756	209	850
ガ ス プ ロ セ ス	1,371	1,300	120	312	629	978	306	1,300
原 子 力	335	300	29	104	162	302	34	300

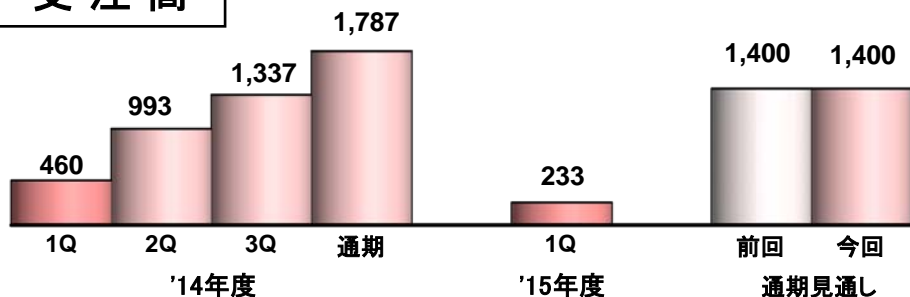
### 3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

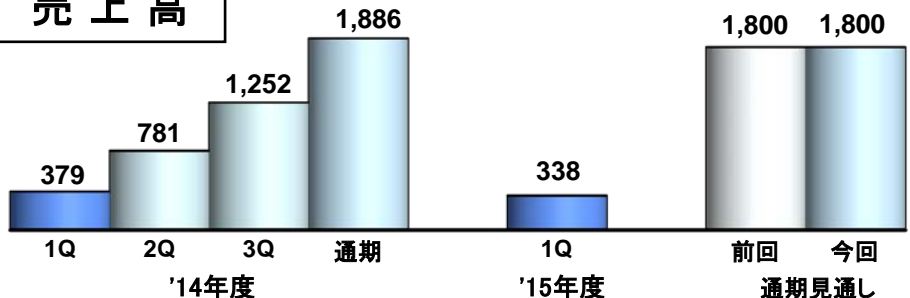
前回: 2015年5月8日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁, 水門, シールド掘進機, 交通システム, 都市開発, F-LNG, 海洋構造物

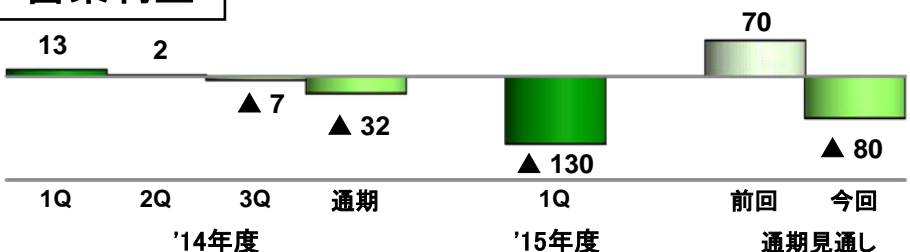
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

前年同期のF-LNG・海洋構造物の大型案件受注の反動のほか、橋梁の減少により、前年同期に比べ減少しました。

##### 【売上高】

F-LNG・海洋構造物の増収があったものの、橋梁及び都市開発の減収により、前年同期に比べ減収となりました。

##### 【営業利益】

F-LNG・海洋構造物での一部受注工事における採算悪化や、前連結会計年度に発生したトルコ イズミット湾横断橋建設工事事故に関わる追加費用の計上により、前年同期に比べ大幅な悪化となりました。

#### <通期見直し 対前回 増減内訳>

営業利益は、F-LNG・海洋構造物での採算悪化やトルコ イズミット湾横断橋建設工事における追加費用の増加により、前回見直しから大幅な減益としました。受注高、売上高は変更ありません。

### 3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高					
	'14年度 通期	'15年度 通期 (見通し)	'14年度			通期	'15年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
橋 梁	334	600	210	421	670	942	154	700
F-LNG・ 海洋構造物	384	50	8	77	117	168	36	300
都 市 開 発	160	150	78	113	149	192	51	150

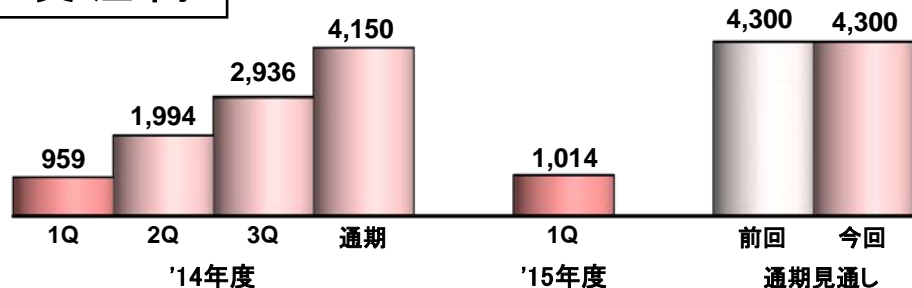
「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P30、P31の<参考資料>をご覧ください。

### 3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

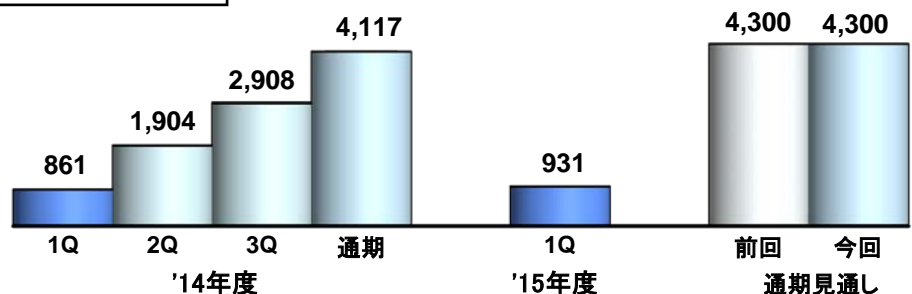
(億円/各期の金額は累計)  
前回: 2015年5月8日公表の業績予想数値

主要事業: 船用機械, 物流システム, 運搬機械, パーキング, 製鉄機械, 産業機械, 熱・表面処理, 製紙機械, 車両過給機, 圧縮機, 分離装置, 船用過給機, 建機, 農機, 小型原動機

#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

運搬機械及び車両過給機の増加により、前年同期に比べ増加となりました。

##### 【売上高】

車両過給機、熱・表面処理及びパーキングの増収により、前年同期に比べ増収となりました。

#### <車両過給機の販売台数> (万台)

販売年度	販売台数
'14年度1Q	145
'15年度1Q	145

##### 【営業利益】

上述の増収効果はあったものの、研究開発費などの販管費の増加により、前年同期に比べ減益となりました。

#### <通期見通し 対前回 増減内訳>

変更はありません。

### 3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高					
	'14年度 通期	'15年度 通期 (見通し)	'14年度			通期	'15年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
運搬機械	282	300	28	68	140	204	35	250
パーキング	398	400	65	167	271	421	87	400
熱・表面処理	292	350	45	112	171	275	70	350
車両過給機	1,682	1,700	407	832	1,233	1,677	440	1,700
圧縮機	286	300	44	105	174	261	49	300

「車両過給機」の詳細は、P29の<参考資料>をご覧ください。

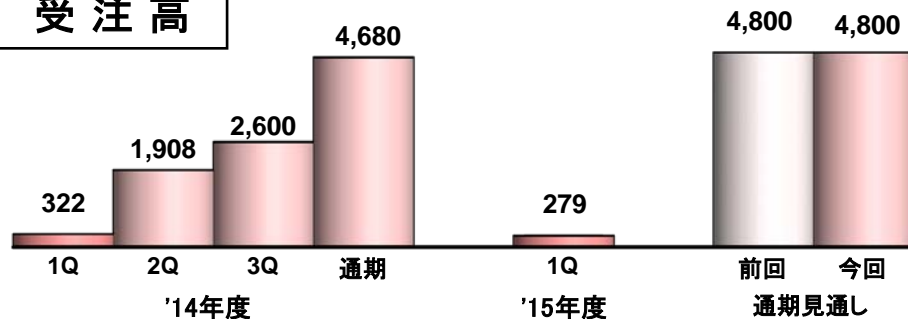


### 3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

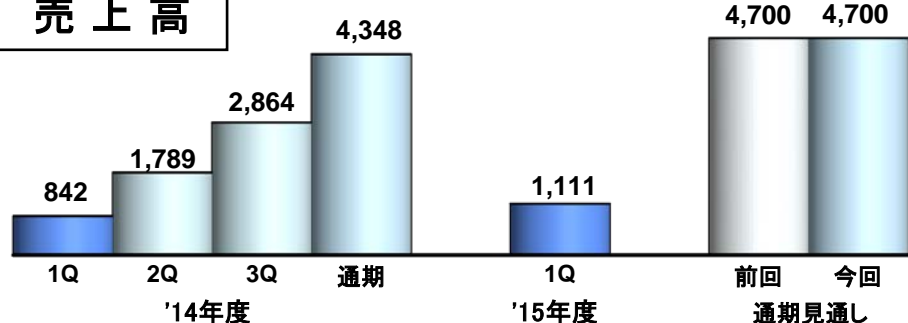
(億円/各期の金額は累計)  
前回: 2015年5月8日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

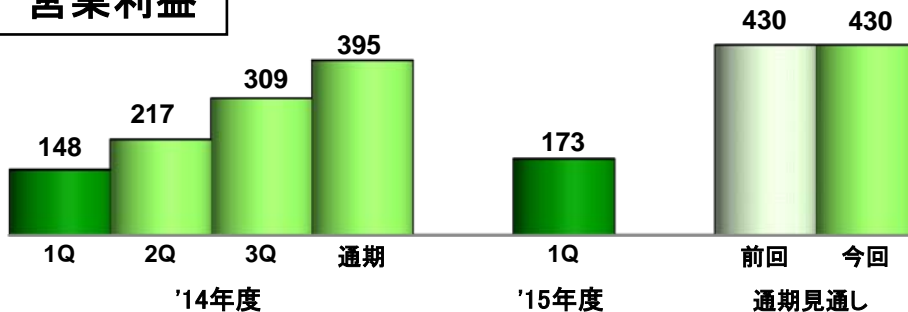
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

航空エンジン及びロケットシステム・宇宙利用の減少により、前年同期に比べ減少しました。

##### 【売上高】

為替円安の影響などにより民間向け航空エンジンが増加したことや、防衛機器システムにおいて艦艇用ガスタービン引渡しがあつたことにより、前年同期に比べ増収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数> (台)

販売年度	販売台数
'14年度1Q	345
'15年度1Q	336

##### 【営業利益】

次世代大型機用航空エンジンGE9Xに関わる開発費などの増加があつたものの、上述の増収効果により、前年同期に比べ増益となりました。

#### <通期見直し 対前回 増減内訳>

変更はありません。

### 3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高					
	'14年度 通期	'15年度 通期 (見通し)	'14年度			通期	'15年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	2,535	2,750	625	1,267	1,973	2,670	778	2,800

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P28の<参考資料>をご覧ください。

## <参考資料①>

- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

## (1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績							見通し	
	'11	'12	'13	'14年度			通期	'15年度	
				1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期
売上高	1,436	1,698	2,260	625	1,267	1,973	2,670	778	2,800

## (2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)											主要搭載機
	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15/1Q	
V2500	2,850	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,590	エアバス A319/320/321
GE90	464	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,096	ボーイング B777
CF34	1,027	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,244	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx							118	259	468	751	821	ボーイング B787/B747-8
合計	4,341	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	13,751	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

## <地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績							見通し	
	'11	'12	'13	'14年度			'15年度		
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期
日 本	331	339	353	90	184	275	375	84	330
ア ジ ア	169	248	298	72	137	207	275	78	210
中 国	143	181	234	63	128	175	243	71	330
北 米	11	13	16	4	9	13	18	5	20
中 南 米	0	0	0	0	0	1	7	8	20
欧 州	437	432	602	176	372	558	756	192	790
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,094	1,216	1,507	407	832	1,233	1,677	440	1,700

## (1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績							見通し	
	'11	'12	'13	'14年度			'15年度		
				1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期
賃貸収入	95	92	91	22	46	69	93	25	100

## (2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'15年度1Q	25	9	6	9

# 豊洲1~3丁目地区 開発マップ

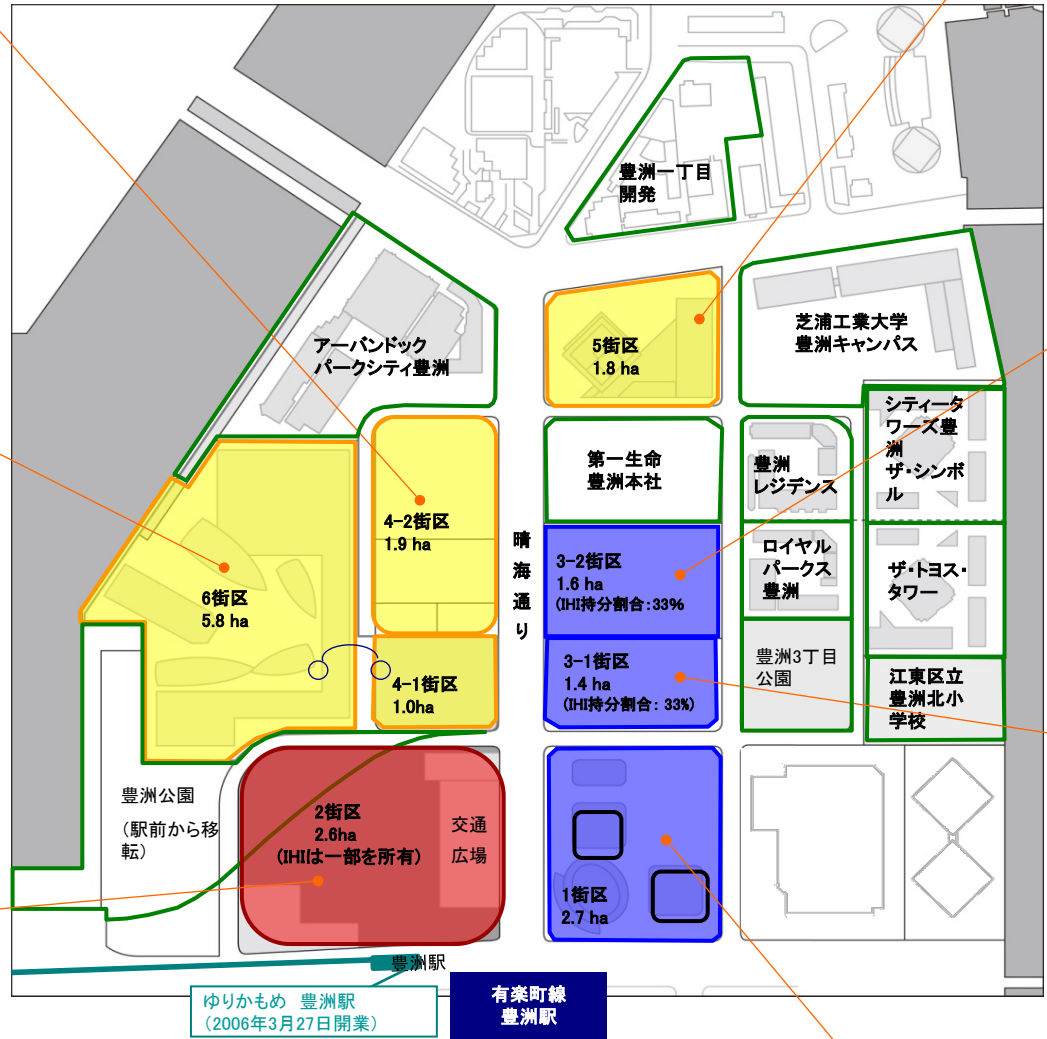
**幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場**  
敷地面積: 19,492㎡  
2010年3月~2011年2月竣工



**アーバンドック ららぽーと豊洲 (三井不動産)**  
地上5F, 高さ約25m, 売り場面積: 62,000㎡  
2006年10月開業



**事務所棟、シビックセンター棟、消防署棟**  
(IHI, 三井不動産, 江東区, 東京都)  
開発中



**豊洲Hビル**  
地上25F, 高さ: 約125m, 延床面積: 97,617㎡  
2006年2月竣工



**豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))**  
地上16F, 高さ: 約75m, 延床面積: 101,503㎡  
2014年7月竣工



**豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)**  
地上15F, 高さ: 約75m, 延床面積: 106,861㎡  
2010年8月竣工

**豊洲センタービル**  
地上37F, 高さ: 約165m, 延床面積: 100,069㎡  
1992年10月竣工

**豊洲センタービルアネックス**  
地上33F, 高さ: 約150m, 延床面積: 105,448㎡  
2006年8月竣工



IHI所有地	約14ha
--------	-------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

※1 都市再開発法で定める手法の一つ



# ＜参考資料②＞

「グループ経営方針2013」進捗状況

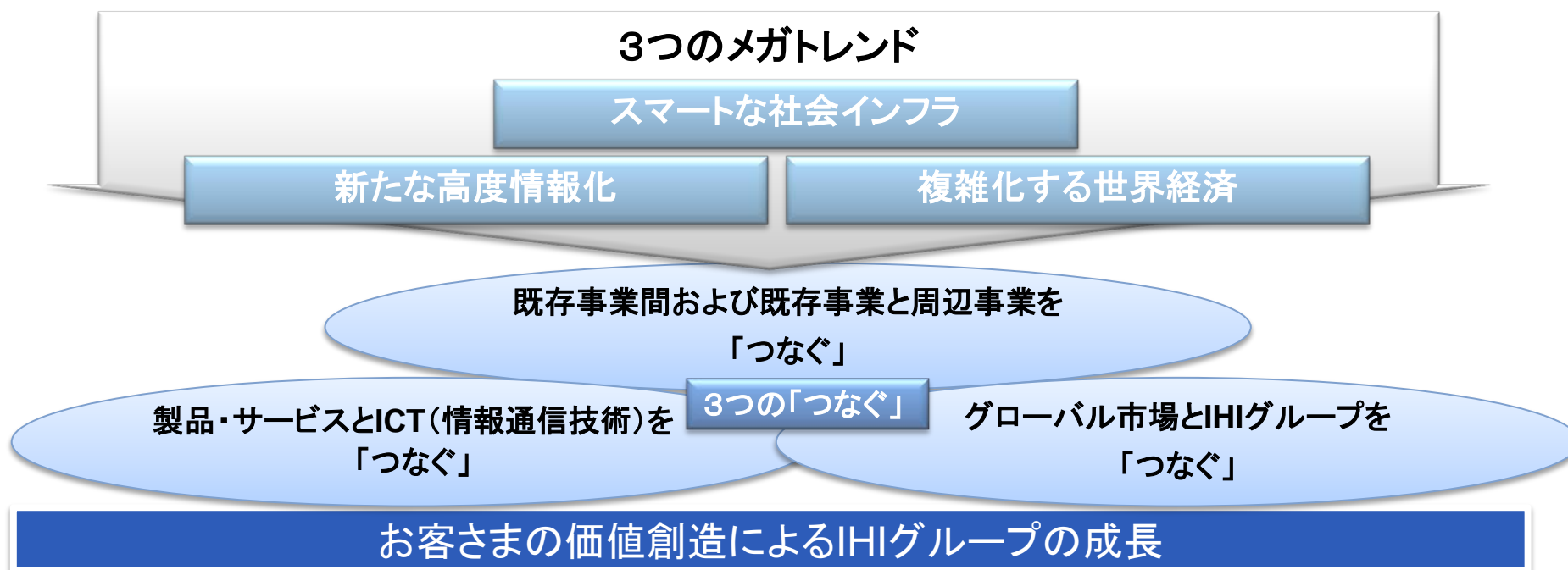


# 「グループ経営方針2013」進捗状況

## ■ 「グループ経営方針2013」の位置づけ



## ■ 「グループ経営方針2013」における経営環境と成長への道筋



# 「グループ経営方針2013」進捗状況

## ■ 「グループ経営方針2013」 経営目標

経営目標	目標数値	目標達成時期	参考見通し (2014年5月公表)
連結売上高	14,000億円	('15年度)	15,300億円
連結営業利益	700億円		900億円
投資総額	4,000億円	('13~15年度)	—
D/Eレシオ	1.2倍以下	('15年度末)	—
ROIC	6.5%		—

連結売上高, 連結営業利益の目標数値は, 為替レート的前提を80円/\$としたものです。  
また, 連結売上高, 連結営業利益の参考見通しは, 為替レート的前提を100円/\$としたものです。

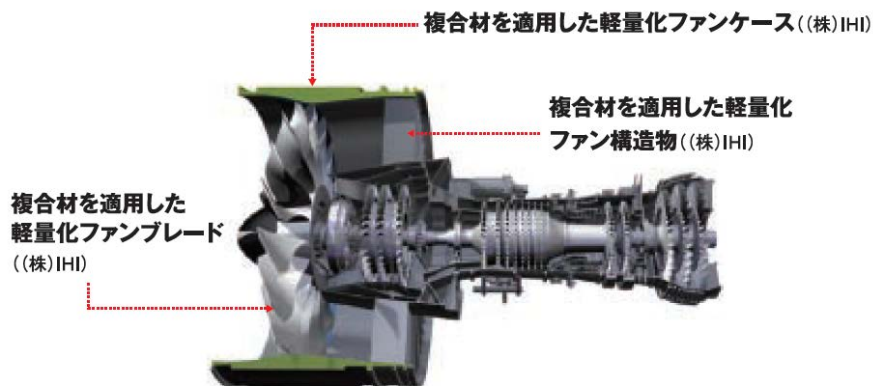
## 産業システム・汎用機械

中国遼寧省の大手企業である遠大企業集団(以下、遠大)と農機事業を行なう合弁会社設立について、合弁契約書に調印しました。

当社グループの農機事業は、現在、当社の子会社である(株)IHスターと(株)IHIシバウラが国内中心に製造・販売しておりますが、将来的に成長の余地が大きい海外市場への展開について検討を進め、今般、当社と中国での農機事業への参入を企図していた遠大との戦略が合致し、中国市場において高品質の農機を提供することを目的に、合弁事業を開始することにしました。



コーンピッカーテスト機



「PW1100G-JM」の開発担当部位  
提供：一般財団法人日本航空機エンジン協会(JAEC)

## 航空・宇宙・防衛

エアバス社「A320neo」用エンジン「PW1100G-JM」向け複合材ファンケースの量産初号機を、当社の子会社である(株)IHIエアロスペース(以下、IA)の富岡事業所から、また、低圧圧縮機の量産初号機を、当社瑞穂工場から、出荷しました。

「PW1100G-JM」の量産にあたって、当社グループとしては初めて、複合材ファンケースの専門工場をIAに新設するなど、当社の先進的なものづくり技術を適用した新規の製造ラインを各拠点に構築しています。

今後見込まれている急激な生産台数の増加に対応するため、引き続き、段階的に設備投資を実施し、量産体制を拡充していきます。

## 「つなぐ」機能に関する取り組み

「ソリューション・エンジニアリング」「高度情報マネジメント」「グローバルビジネス」の3つの「つなぐ」機能に関わる取り組みとして、当社は、イタリア国鉄のインフラ管理会社であるRete Ferroviaria Italiana(RFI社)から、3次元レーザーレーダ式踏切障害物検知装置127台を一括受注しました。

これは、当社の日本国内での豊富な実績と、世界最高レベルの安全性を証明する公的認証機関が発行する国際安全性規格の認証(SIL4)を取得したことなどが評価されたことによるものです。

今回の一括受注を足掛かりに、今後、当社は、欧州全域での踏切障害物検知装置の受注活動を積極的に推進していきます。



3次元レーザーレーダ式踏切障害物検知装置



IHIグループ人材開発交流センター「I-STEP湘南」

## 人材育成に関する取り組み

当社が人材育成の中核施設として神奈川県横須賀市に建設を進めていた「IHIグループ人材開発交流センター(愛称「I-STEP湘南」)が完成しました。

このI-STEP湘南における学びと交流を通じて、当社の経営理念の一つ「人材こそが最大かつ唯一の財産である」のもと、次世代を担う人材の育成に注力します。

そしてグループ全従業員の成長を原動力に、当社グループ全体の成長を実現していきます。

# IHI

Realize your dreams

## ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。